

彫刻に埋め尽くされた龍神社の本殿、胴羽目板の見事な彫刻の「匠の美」をご案内します。

### 「本殿胴羽目板の見事な彫刻」

本殿の胴羽目板は、見事な彫刻で埋め尽くされています。小さな神社ですが、市内でも有数の神社彫刻です。

東面胴羽目板の「神功皇后奉珠」図、背面胴羽目板の「司馬温公甕割り」図、西面胴羽目板の「養老乃瀧」図、です。

脇障子の「天手力男命」「八百万神」「奏楽」など素晴らしい彫刻が見所です。

彫刻は、昭和3年本殿建て替え時に作られ、江戸時代から寺社彫刻で著名な「後藤一派」、二代目後藤直光を名乗る行徳の五代目渋谷茂助の倅、渋谷茂吉の作といわれています。

行徳には多くの優れた仏師や宮大工が活躍していました。

明治期に入り、全国的に神輿の需要が増え、仏師から神輿へ転換し全国の神輿4千基の半数ほどが行徳の彫刻師により作られたといわれています。



本殿東面胴羽目板「神功皇后奉珠」の彫刻



本殿背面胴羽目板「司馬温公甕割り」の彫刻



本殿西面胴羽目板「養老の滝」の彫刻